

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年3月11日

事業所名 レジリエンス・スポーツクラブ

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	0		<ul style="list-style-type: none"> もう少し広いスペースがあったほうがいい。 放課後等デイの利用者が3名以上になるともう少し広いほうがいい。 →不動産と相談し、対応できる部分については改善していく。また、物の配置などを工夫することで活用できるスペースを確保できないか検討していきます。 放課後等デイで3名の受け入れができる体制が取れるようにしてほしい →職員の配置及び、受け入れができるスペースの確保ができるように検討していきます。
	2	職員の配置数は適切である	6	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 児童指導員・保育士・福祉サービス経験者を常勤3人以上、アルバイトもスタッフとして配置している。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団レッスンの時にもう少し人数がいてほしい →今後も、職員を募集する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	5	1		<ul style="list-style-type: none"> 床の凸凹 歩行ができない子はスタッフが抱っこで対応しているが、今後大きくなってくるときは必要。 現在はないが、今後必要になってくるのかも。 レッスン室までは階段なので歩けない子に対して年齢によって整備が必要かも。 →必要に応じて、不動産と相談し改修、補修していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	0		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1	0		レッスン室にも掲示し、今後も会報やホームページ等で公開していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	1		<ul style="list-style-type: none"> わからない →外部評価の依頼を行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の合同スタッフミーティングや、所内研修など外部からの講師を招き、学ぶ機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育や療育に関する研修を増やしてほしい →全体研修だけでなく、スタッフ同士でのワークなども含め、資質向上につなげていく。
適切な 支援の	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0		<ul style="list-style-type: none"> 会議の時間をもっと確保して行いたい。 →週1で会議できるよう場を設定していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	0		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	5	0		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	0		

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
の 提 供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	1		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	0		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	2	5	0		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	1	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	4	0		医療ケアが必要な子の受け入れがない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	0	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	4	0		・やっちはいるが、わからないだけかも。 ・わからない →管理者・児童発達管理責任者が連携していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3	0		・年に1回くらい？ →職員研修を今後も行います。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	3	4		・車いすサッカー大会があるが、同年代の子との交流はない →車いすサッカーなどイベントを通して、今後も交流を行っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	2	1		管理者・児童発達管理責任者が連携していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0		
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	1	1	ペアプロや保護者懇談会を通して支援をしている。	より多くの保護者が参加できるように、日程や内容なども提案していく。	
保 護 者 へ の 説 明 書	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	2	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	0	毎月1回、合同開催している。	・共働きで参加が少ない。日程調整が必要かも。 →より参加しやすいように曜日や時間帯、内容などを検討し日程調整していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0		

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
任 等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0		
	35	個人情報に十分注意している	6	1	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	1	4		今後、検討していく。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	4	1		レッスン室に緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、掲示する。また、契約時の書類にも記載する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1	1		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	1		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	4	1	ビデオやレッスン記録、振り返りを通して確認している。	事故報告書やビデオ映像、レッスン記録、振り返りは今後も継続しながら、ワークや研修等を通して、共有していく。